

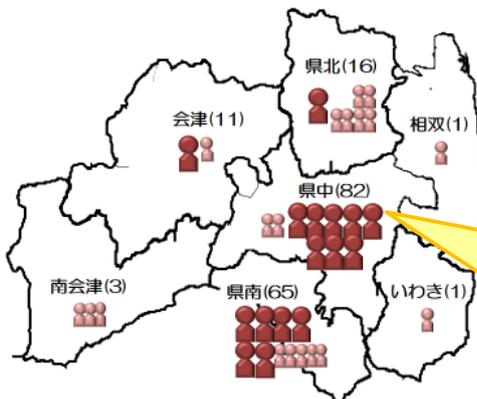
	福島県		県中地域				岩瀬地区				石川地区				田村地区			
	第19週	第18週	第19週		第18週													
	感染症動向	感染症動向	感染症動向	学校欠席者情報														
インフルエンザ	251	338	52	88	57	57	39	41	30	32	0	19	0	6	13	28	27	19
咽頭結膜熱	17	14	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	122	135	7	0	5	0	4	0	4	0	0	0	0	3	0	1	0	
感染性胃腸炎	267	164	60	30	24	8	53	12	20	2	0	14	0	5	7	4	4	1
水痘	24	21	4	16	4	2	4	5	4	1	0	10	0	1	0	1	0	0
手足口病	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
伝染性紅斑	9	4	2	0	1	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
突発性発疹	31	26	0	0	5	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	1	0	
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性耳下腺炎	13	4	9	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	7	1	1	0	
RSウイルス感染症	16	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	17	9	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	

【感染症発生動向調査】 ※定点医療機関からの情報をもとに集計 【学校欠席者情報】 ※保育園、幼稚園、小中学校、高等学校の欠席者情報です。

県中地域の状況
〈流行性耳下腺炎の患者数が増加しています〉
 県中地域、主に田村地区で流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)の患者数が増加しています。流行性耳下腺炎は2~3週間の潜伏期を経て発症し、耳の下や顎の下の腫れ、咳、鼻水、発熱などの症状がみられるようになります。年齢が上がると重症化しやすく、重度の合併症を引き起こす可能性もあります。また、学校保健安全法により出席停止となります。
 流行性耳下腺炎の原因となるムンプスウイルスは感染力が強く、患者の呼吸器の飛沫を吸い込んで、あるいは患者の唾液で汚染されたものと接触することで感染します。予防法として最も有効なのは、予防接種を受けて免疫を獲得しておくことです。流行性耳下腺炎の予防接種は任意ではありますが、発症を防ぐため、重症化を予防するために非常に重要となりますので、積極的な接種が推奨されます。

春~初夏は「つつが虫病」に注意しましょう！

県内地域別患者発生状況(2011-2016年)



H29年県中地域1例目のつつが虫病患者の届出がありました

- つつが虫病は、リケッチアという病原体を持っているツツガムシ(ダニの一種)に刺咬され感染します。
- 症状は、倦怠感、食欲不振、頭痛、発熱、発疹、リンパの腫れなどです。
- ツツガムシは、主に田畑や山林、河川敷などに生息しています。これらの場所で活動を行う際には、長袖・長ズボンを着用し、出来るだけ素肌を出さないようにしましょう。また、帰宅後は速やかに身体を洗い流し、着替えを行いましょう。
- ツツガムシが生息しているような場所に立ち入ってから5~14日後に体調不良を感じた場合には、すぐに医療機関を受診してください。

引用：福島県衛生研究所 <https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/211024.pdf>